

兵庫県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

1 高等学校における現状と課題

【現状】

CEFR A2 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数の割合が 53.8%、授業における生徒の英語による言語活動時間の割合が 50%以上である教員数の割合が 73.5%である。生徒の英語力については、ここ数年国の目標値を超えており、各学校で進められてきた授業改善の取り組みが実を結んでいると考えられる。

本年度は授業における言語活用時間の項目については減少している。感染拡大防止策を取った上での授業実施等が、言語活動の制限に影響していると考えられる。

パフォーマンステストの実施（コミュニケーション英語 I）については、英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科においては 100%となっているが、普通科及びその他の専門学科はおよそ 47%と低い状態であり、定期的な実施については、さらに低い割合が予測される。今後は、評価材料を揃え評価の根拠とするため、年間指導計画と CAN-DO リストを連動させることや、実施方法を工夫すること等により、各領域ごとの計画的な実施を進めることが急務である。

【R 3 年度主な目標達成状況】 ※R2 の実績値は県独自の R2 英語教育実施状況調査による。

指 標	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	指 標	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)
CEFR A2 レベル相当以上生徒の割合	52.9%	50.0%	53.8%	CEFR B2 レベル相当以上教員の割合	-	90.0%	81.9%
生徒の言語活動授業の半分以上	75.6%	100.0%	73.5%	教員の英語発話授業の半分以上	69.1%	100.0%	69.5%
学 習 到 達 目 標 の 公 表	71.9%	100.0%	61.6%	学 習 到 達 目 標 の 把 握	67.6%	60.0%	53.5%
ハ°パフォーマンステスト の実施（普通科）	-	100.0%	47.0%	ハ°パフォーマンステスト の実施（専門学科）	-	100.0%	46.8%

※調査対象となる授業は「コミュニケーション英語 I」

【課題】

CAN-DO リストについては、設定が 94.0%、公表が 61.6%、達成状況の把握については 53.5%となっている。CAN-DO リストの意義は、段階的な学習到達目標を設定することで、指導や評価における指針とし、指導の PDCA サイクルを確立することにある。本県では「D (do) 実行」、つまり実際の指導の段階では言語活動の充実や教員の英語使用において高いレベルにあるが、「C (check) 評価」で大切な目標達成度の把握の割合が低い状況にある。本来なら、達成状況に応じて、指導方法等の見直しや到達目標の修正を行う「A (action) 改善」に繋がっていくべきであるが、半分近い学校が、パフォーマンステストの実施等による達成状況の見極めができていない状況である。加えて、CAN-DO リストの改訂が行われていないことも懸念される。そのため、年間指導計画の中に、各パフォーマンステストにおいて CAN-DO リストのどの部分を扱うか等を記載する等、リストの具体的な活用方法について指導していく。

パフォーマンステストについては、CAN-DO リストによって示されたねらいに焦点化して実施する必要がある。年間指導計画の一部として CAN-DO リストを位置づけ、その計画に基づいて年間複数回のパフォーマンステストを実施できるように、教員の負担を減らすことのできる実施方法やシンプルなルーブリックの作成方法等について、教員研修等において引き続き指導していく。

また、授業における ICT 活用についても、各学校の環境が整備されつつあるため、更なる言語活動の活性化や質の向上につなげるため、効果的な活用法を指導していく。

【R4年度改善方策及び目標】

重点取組項目	改善方策	目標となる指標
①生徒の意欲を高める授業づくり	○ALT (132人) を全校配置 ・チーム・ティーチングによる授業の充実 ・英語以外の授業での活用の推進 ・海外の高校との共同研究の実施	○CEFR A2レベル相当以上生徒の割合 R4 50.0% (現状：R3 53.8%) ○生徒の言語活動時間(授業の半分 以上) R4 100% (現状：R3 73.5%)
②4技能を総合的に育成する取組	○学習到達目標を生かした授業 ・兵庫版基本 CAN-DO リストの活用 ・各校毎の CAN-DO リストの改善・公表・達成状況の把握等、効果的な活用 ○ICT 活用による言語活動の活性化 ○国際交流事業 ・姉妹州省との相互交流の実施 ○各種コンテストの実施 ・スピーチ、エッセイ、ディベートコンテストの実施 (高英研と連携)	○パフォーマンステストの実施(1科目平均) ・スピーキング R4 3.0回(R3 2.0回) ・ライティング R4 2.0回(R3 1.8回) ○イングリッシュ・キャンプの実施 R4 30校(現状：R3 26校) ○海外の高校との協働学習の実施 R4 35校(現状：R3 23校) ○CAN-DO リストを公表している学校 R4 100.0%(現状：R3 61.6%) ○CAN-DO リストの達成状況を把握している学校 R4 65.0%(現状：R3 53.5%)
③教員の英語力、指導力の向上	○教員の海外派遣 (R4 は派遣見送) ○先導的なオンライン研修実証事業の受講者による成果報告の実施 ○日本人教員を交えた ALT 研修等の実施	○CEFR B2レベル相当以上教員の割合 R4 90.0% (現状：R3 81.9%) ○教員の英語使用率の向上 R4 100.0%(現状：R3 69.5%)

2 中学校における現状と課題

【現状】

令和3年度の「求められる英語力を有する英語教員及び生徒の割合」は、令和2年度(県独自調査)と比較すると若干減少しており、依然として文部科学省目標に達していない。また、「授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合(50%以上の割合)」及び「英語担当教員の授業における英語使用状況(50%以上の割合)」についても、全国平均を下回っている。

【令和3年度主な目標達成状況】

指標	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	指標	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)
CEFR A1 レベル相当以上生徒の割合	44.2%	45.0%	41.6%	CEFR B2 レベル相当以上教員の割合	40.4%	40.9%	40.2%
生徒の言語活動授業の50%以上	71.5%	80.0%	62.9%	教員の英語発話授業の50%以上	55.9%	80.0%	62.6%

【課題】

CEFR A1 レベル相当以上生徒の割合については2.6%の減少が見られ、CEFR B2 レベル相当以上教員の割合については0.2%の減少がみられる。いずれも目標値に達していないので引き続き啓発を進めていく。生徒の言語活動の実施には課題が見られ、感染対策を講じたうえで、言語活動を中心とした授業への改善を促す必要がある。

【R4年度改善方策及び目標】

① 教員の指導力向上

ア 改善方策

○英語教育の充実に向けて（英語教育改善プラン研究のまとめ）を活用した研究成果の普及

イ 目標となる指標

項目	現状	R4	R5	R6
求められる英語力を有する生徒	41.6%	45%	47%	50%
生徒の英語による言語活動時間（50%以上の割合）	62.9%	70%	85%	100%

② 教員の英語力の向上

ア 改善方策

○日本人教員を交えたALT研修等の実施
○外部検定割引制度の活用等についての周知

イ 目標となる指標

項目	現状	R4	R5	R6
教員の英語力の向上	40.2%	45%	48%	50%
教員の英語使用率の向上（50%以上の割合）	62.6%	80%	90%	100%

3 小学校における現状と課題

【現状】

教員の指導力向上については、各地域の小・中学校教員を対象に公開授業や研究協議会の実施や個々のスキルアップに対応できるよう「外国語教育指導用映像資料」の活用を推進し教員の指導力向上を図ってきた。また、「英語教育の充実に向けて」を作成し各学校に配布して指導力の向上を図っている。

専科加配については、新学習システムにより県内全小学校の約4割に配置している。

【課題】

各地域で「外国語教育指導用映像資料」を活用した公開授業や研修会を依頼しているが、新型コロナウイルス感染症により、授業参観を設定できないなど、十分な普及活動ができないのが現状である。

また、専科加配については国加配定数を利用して非常勤講師の配置を進めていくが全ての学校への配置には届いておらず、学級担任の指導力向上に向けた支援も引き続き必要である。

【R4年度改善方策】

① 教員の指導力向上

【改善方策】

- 英語教育の充実に向けて（英語教育改善プラン研究のまとめ）を活用した研究成果の普及
 - ・パフォーマンス評価の在り方
 - ・新学習指導要領に基づく指導方法の工夫
 - ・学びの接続を意識した小・中連携
 - ・教員の英語力向上に向けた取組
 - ・「小学校外国語教育指導用映像資料」を活用した効果的な研修

② 教員の英語力の向上

【改善方策】

- 教員の英語力向上
 - ・外部検定試験受験に向けた研修

- より質の高い英語教育を推進する小学校教員の新規採用に係る取組について

本県では、公立学校教員候補者選考試験（小学校・特別支援学校区分）において、より質の高い英語教育を推進するため、平成26年度実施から、一定の英語資格所有者への配慮措置を導入し、その後、平成28年度実施からは加点措置とした。また、平成30年度実施からは中学校または高等学校「英語」の免許を所有する者へ加点措置。

	R3 (実績)	R4
一定の英語力を有する 新規採用者の割合	4.9%	8.2%

○教科担任（外国語）【兵庫型学習システム】

- ・外国語科及び外国語活動における効果的な指導方法について研究するとともに、指導体制の充実を図る。
- ・第3～6学年における取組であるが、学校の課題として位置付け、学校全体で取り組む体制を確立する。

(推進学年及び推進教科)

推進学年 第3～6学年
 推進教科等 外国語科及び外国語活動

○令和4年度専科教員の指導力向上事業

「兵庫型学習システム」の実施に伴い、専科教員の指導力向上を図るため、各教科（小学校算数・理科・外国語）の特質に応じた実践研修を実施することを通して、児童の学力向上及び指導体制の充実を図る。

(2) (1)の目標を達成するための取組（施策の全体像と具体的な計画）

1 施策の全体像			
	小学校	中学校	高等学校
配置	・小学校への英語専科教員の配置	・英語教育推進リーダー	・全県立高等学校へのALTの配置 ・ネイティブ教員の採用
研修	・専科教員の指導力向上事業		・先導的なオンライン研修実証事業の受講者による成果報告
	・外国語指導助手および英語担当教員を対象とした研修の実施		
活用促進	・冊子、指導用映像資料の活用促進	・県作成の中学生のための単語集の改訂および活用促進	・各校作成のCAN-DOリストの活用促進

2 具体的な計画

(1) 小学校への英語専科教員の配置
外国語科及び外国語活動の効果的な指導方法について研究するとともに、指導体制の充実に図るために、国加配定数を活用して常勤の英語専科教員を配置する。
・配置人数 135人

(2) 専科教員の指導力向上事業
ア 第1回指導力向上研修
①対象者
算数・理科・外国語のすべての専科教員
②実施方法
オンライン
③研修内容
学識経験者による講義（各教科の特質に応じた授業づくりについて）
イ 第2・3回指導力向上研修
①対象者
各市町の中核となる教員（各教科1名）
②実施方法
グループ別研修
③研修内容
・これまでの実践とICT機器を効果的に組み合わせた実践研究
・デジタル教科書（外国語）を活用した指導方法の工夫・改善
・学識経験者による指導助言 等

(3) 「英語教育の充実に向けて」・指導用映像資料の活用促進
県内全小・中学校に配布した「英語教育の充実に向けて」を活用し各学校で教員の指導力向上を目指す。資料では外国語教育における評価について多くのページをとり、現場からの声で特に多かった評価に対する不安を改善することを目指す。
また、冊子には「小学校外国語教育指導用映像資料」の解説を掲載し、各学校でのさらなる活用を進めている。
中学校教員向けの内容も掲載しており、中学校の教員に小学校での取組内容を知っても

らい、小中連携を強化するとともに、中学校での授業改善につながることを期待する。

(4) より質の高い英語教育を推進する小学校教員の新規採用

令和2年度実施からは在外教育施設等における2年以上の英語を使用した海外留学・勤務経験を有する者への加点措置を追加し小学校英語教育の充実に向けた教員の採用を促進している。

今後の一定の英語力を有する小学校教員を採用するため、選考試験を工夫し、計画的に人材の確保に取り組む。

(5) グローバル・イングリッシュ・プロジェクト

ネイティブの外国語指導助手の配置により、英語教育の充実を図る。

○配置校 全県立高等学校等

○配置人数 132人

○内容 [全県立高等学校]

日常的な英語活動機会（ホームルーム、部活動、学校行事等）の充実、異文化理解にかかる教育活動の実施、英語教育の充実に向けた発表会の開始、イングリッシュキャンプ等

[重点配置校21校（国際系学科、コース、SSH等国事業指定校）]

海外の高校生との共同学習の指導、英語以外の授業（数学・理科等）での英語による授業、イングリッシュキャンプの指導支援等

(6) 外国語指導助手および英語担当教員を対象とした研修の実施

ア 趣 旨

小・中・高等学校等において語学指導等に従事する外国語指導助手（ALT）に対し、一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、外国語教育の充実に資する。

イ 対象者

○「兵庫オリエンテーション」 新規来日 ALT

○「外国語指導助手の指導力等向上研修」 ALT 約250名
日本人英語教員 約300名

ウ 実施回数

○「兵庫オリエンテーション」 2日間

○「外国語指導助手の指導力等向上研修」 1日間

エ 主な実施内容

○効果的なチーム・ティーチングの在り方と実践について

○小学校・中学校・高等学校等における外国語教育をめぐる諸問題について

(7) 先導的なオンライン研修実証事業の成果波及

受講者による成果報告の場を設定し、当該事業の成果の県内への波及を図る。

○兵庫県高等学校教育研究会英語部会総会等における、成果報告を実施する。

(3) (2)を実施する体制の概要



